ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biochim Biophys Acta 2007; 1772: 598-609	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)がウシのBSEと同じプリオン株によってヒトに発症するという認識はヒトプリオン病の分子生物学に関する正確な理解の必要性を注目させた。多数のプリオン病患者から得られた詳細な臨床的、病理学的および分子学的データはヒトプリオン病における表現型の多様性が、疾病に関連したPrPアイソフォームの伝播に部分的に関係していることを示した。ヒトにおけるプリオン感染の潜伏期間は50年を越えることもあるので、ヒトvCJD流行の程度を予測するにはまだ数年要する。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfus Clin Biol 2006; 13: 312-316	vCJDが輸血により伝播するエビデンスがあるかを調べるために1997年に英国で試験が開始された。今までのところ本試験により、輸血によるvCJD伝播と思われる症例が3例特定された。2例は臨床症状を呈し、もう1例は臨床症状発現前の症例である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2007年5月30日	近年、英国で得られた血漿から作られた血漿第XI因子(pdFXI)を投与された患者でのvCJDリスクが関心を集めている。1989年から2000年の間に米国では約50人に英国血漿由来のpdFXIが投与された。世界中でこれまで血友病や他の凝血疾患の患者においてvCJDは全く報告されていない。これらの患者は長期間にわたり血漿由来製剤を大量に投与されていることから、pdFXIを投与された患者でのvCJDリスクは小さいと考えられる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2007; 47: 1418-1425	PrPTSEのmisfolded protein diagnostic (MPD)アッセイは、TSE感染マウス、正常マウスおよびPrPノックアウトマウス由来の脳組織中で、ウェスタンブロットシグナルと相関し、異なったペプチド配列を持つ試薬ではnegativeアッセイシグナルであった。血漿又は血清に対して適用した場合には、MPDアッセイは未感染の対照と比較して、種々の実験的および自然TSE感染由来検体を区別した。MPDアッセイは、ヒト及び動物のプリオン病の前臨床及び臨床診断にあたり有用であると考えられる。